

社会とのつながりを深めるために

工場見学会、説明会などを開催

近隣自治会や地域住民を招き工場見学会や説明会、従業員の家族の工場見学会などを実施しています。また、地域住民との懇親の場として工場主催のイベントを開催しているほか、子どもが危機に遭遇した時の「駆け込み場所」として市町村の取り組みに協力しています。



家族見学会(新城工場)



「こどもサポート」プレート
(平塚東工場)

清掃や祭りなど地域行事に参加

市町村主催のボランティアや清掃、緑化運動などに参加しています。2006年度、三重工場では勢田川の七夕大掃除に100名、新城工場では市内清掃活動に179名が参加しました。さらに祭りや花火大会、駅伝などに積極的に参加し、地域行事の活性化に取り組んでいます。



しんしろクリーンフェスタ
(新城工場)



小美玉市駅伝大会(茨城工場)

教育活動を支援

地元の小・中学校の教育支援を目的に体験学習や環境教育の受け入れを行っています。2006年度は三島、新城、長野、平塚東工場で計13校を受け入れました。また、平塚製造所では小学生に心停止時の救命装置であるAEDの講習を行ったほか、三重工場では工業高校のボイラー実技講習会を開き、従業員が講師を務めました。



地元中学生の体験学習(三島工場)



小学生へのAED講習
(平塚製造所)

工場施設の開放

構内の広場、グラウンド、体育館などを地元の住民やクラブ、消防関係者に開放しています。2006年は平塚製造所社員寮のテニスコートが約270日、三島工場の体育館が592回使用されるなど多くの方が利用しています。尾道工場の「恐竜公園」(2006年度1,783名来場)や新城工場の「タイヤランド」は地元住民の憩いの場として定着しています。



地元サッカークラブへの
グラウンド開放(三重工場)



恐竜公園(尾道工場)

社会とのつながりを深めるために

環境、社会貢献に対する表彰

2007年5月、三島工場がタイヤ業界で初めて「第5回 コージェネレーションセンター賞」の環境保全奨励賞を受賞しました。また、2006年7月、三重工場が年4回10年以上にわたり実施してきた「地域医療少年院の工場見学における矯正行政支援協力」に対し、法務大臣より感謝状を頂きました。



表彰状を手にする鈴木一朗工場長(右) 感謝状を手にする持永義登工場長 (三島工場)

WWF・社外団体への参加

国の地球温暖化防止国民運動である「チーム・マイナス6%」に、2005年6月から参加しています。このほか2006年10月には、(財)世界自然保護基金ジャパン

(WWF Japan)の法人会員に加盟しました。さらに国連世界食糧計画(WFP)を支援する特定NPO法人である国連WFP協会に協賛しています。

海外グループ会社の環境・社会貢献活動

ヨコハマタイヤ フィリピン

植樹活動

2007年7月、工場外へ漏れるゴムの臭いを軽減するため、ヤシの木などを工場周辺に植えました。政府関係者やNGO組織、軍隊の方々と共に植樹活動にも



ヤシの木を植える従業員

リサイクルイベントに参加

地区の環境従業者協会(EPA)の有力メンバーとして地元のリサイクルイベントを支援したほか、6月の環境月間には政府関係者と共に「環境行進」に参加しました。

再利用材料を寄付

旧式の器材、机や椅子に再利用できるドラムやパレット、木の鉢となる廃タイヤなどを地元の小学校やコミュニティに寄付しています。



廃タイヤを木の鉢に再利用

協機工業

地域交流活動

低・高圧ホース生産・販売会社である台湾の協機工業は、工場のある工業団地内の会社に呼び掛けて土地の神様を祀る廟を建設し、お祭りの時に廟に通じる道路を清掃しています。また、2002年から地元小学校の環境教育のため30,000円を寄付しています。こうした活動が評価され、2006年11月、台湾の全国総工会から社会貢献の優秀会社として表彰されました。



廟に至る道路を清掃



社会貢献の優秀会社に贈られるメダルを手にした林金池会長(右)

環境コミュニケーション

横浜ゴムでは、環境・社会報告書やホームページ、社内報を通して環境情報を開示しているほか、環境

貢献社会活動の支援を通じて環境保護の重要性を訴えています。

環境貢献社会活動の支援

次世代のモータリゼーションの可能性を追求する活動として、2007年1月、天ぷら油を精製したバイオディーゼルカーで「ダカールラリー2007」に参戦した片山右京氏を支援しました。また、EVカー（電気自動車）と低公害車の普及をテーマに活動する「日本EVクラブ」に賛同し、1995年から各種EVレースに協賛しています。



ダカールラリー参戦車両
「トヨタ Land Cruiser 100」

2007年4月の試乗会で使われた
最新EVカー

「エコプロダクツ2006」へ出展

2000年から「エコプロダクツ」に出展しています。2006年は乗用車用エコタイヤ「DNA」シリーズ、トラック・バス用エコタイヤ「ZEN」、リサイクル商品「多孔質弾性舗装材」などを展示しました。また、積極的に環境保護を訴えている元F1ドライバー片山右京氏をゲストに招き、横浜ゴムブースで来場者と対話して頂きました。



横浜ゴムブース



ゲストに招いた片山右京氏

音楽チャリティイベント「LIVE ecoMOTION」開催

2007年7月、音楽チャリティイベント「LIVE ecoMOTION」を「渋谷C.C.Lemonホール（渋谷公会堂）」で開催しました。“みなで地球温暖化問題を意識し、ワクワク、楽しみながら環境を考えよう”をテーマとしたライブ（入場料500円）で、約1,700人が来場しました。アーティストはノーギャラで演奏、横浜ゴム従業員約40名がボランティアで運営に協力しました。入場料と募金1,031,000円を全額WWF Japanに寄付しました。



来場者が環境への思いを書いた
エコ宣言カード



演奏するMONKEY MAJIK



2007年6月8日、植樹を前に平塚製造所内の地質を調査する宮脇昭氏(左写真右端)と横浜ゴム富永靖雄会長(同左端)。杜の写真はイメージ。

「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクトを開始

「YOKOHAMA千年の杜」は創立100周年を迎える2017年までに国内外の全生産拠点に「杜」を創生するプロジェクトです。国内では2007年11月の平塚製造所を皮切りに、全生産拠点に約22万本を植樹します。

■工場を「杜」にして環境保全効果を高める

工場内に「杜」を創生することで大気浄化作用、鳥や昆虫の生育環境の創造など、工場そのものが環境保全効果を生み出す存在となることを目指します。さらに、倒れにくく、燃えにくい常緑広葉樹を植えることで災害時の避難場所としても利用できます。このように、ただ木を植えるだけでなく、地球環境、地域社会の“命を守る緑環境再生活動”として取り組みます。

■地域の皆さんと協同した「自前の杜」づくり

植樹に必要な作業をすべて横浜ゴムグループの従業員やその家族、地域ボランティアの方々で行い、自前の「杜」づくりを目指します。まずは、2007年秋から苗木となるどんぐりを10万個集め、さらに収集したどんぐりから年間3万本の苗木を育てる計画です。

■実績のある「宮脇方式」を採用

国内外1,500カ所以上で植樹活動を行ってきた宮脇昭氏(横浜国立大学名誉教授)の指導の下、その土地、地域に最も適した“ふるさとの木”を植えることで、長く続く本物の「杜」づくりを進めます。宮脇氏が考案した「宮脇方式」は、比較的短期間(10年)で高さ20メートルほどの「杜」が創生できるとされています。



7月26日、プロジェクト開始に先立って平塚製造所で講演する宮脇昭氏